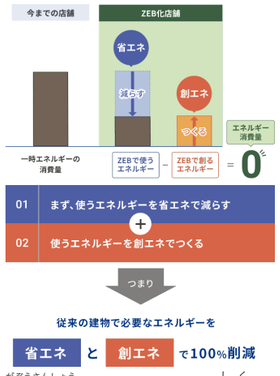
SDGs新聞	株式会社イチケン
エネルギーの使用量をゼロにするZEB（ゼブ）	

SDGsラジオを読んでみよう！

地球温暖化の原因となる二酸化炭素が、私たちが暮らしている身近な場所から出ているって知っていましたか？
日本で排出される二酸化炭素の約3分の1が住宅やスーパー、ショッピングセンターなどの建物から出ているんですよ。
そこで「商業施設建築のスペシャリスト。建設会社のイチケン」が取り組んでいる技術が、
ネット・ゼロ・エネルギー・ビル「ZEB（ゼブ）」。
これは建物全体を省エネにして、建物内で使う電力を太陽光発電などで創り、エネルギーの使用量をゼロにするのをめざす
技術の事で、イチケンがつくる商業施設などにこの「ZEB（ゼブ）」が採り入れられています。
例えば、あるショッピングセンターでは、自動で節電する照明を使い、壁には冷暖房の効率が良い素材を選び、
ソーラーパネルで電力を創っています。
使うエネルギーを減らして、新しいエネルギーを創って、プラスマイナスゼロに。
みなさんの街にも、環境に優しい「ZEB（ゼブ）」の建物があるかもしれません。少し意識して見てみましょう。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



画像参照：「ZEB（ゼブ）」の仕組み
（イチケン公式HPより）

画像参照：「ZEB（ゼブ）」の技術を取り入れた
神奈川県横浜市の商業施設「ビエラ蒔田」
（イチケン公式HPより）

商業施設には、小さなスーパーマーケットやコンビニ、大きなショッピングモールまでいろいろな種類があり、私たちの暮らしを便利に快適にしてくれています。一方で、これらの商業施設から出る二酸化炭素の量はとても多く、地球温暖化の原因になっています。そこで商業施設を中心にさまざまな建物をつくっている「建設会社のイチケン」では、二酸化炭素の量を減らすために、「ZEB（ゼブ）」という環境に優しい技術を採り入れています。「ZEB（ゼブ）」とは、「Net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング）」の略で、今、環境省や経済産業省などでもこの技術を広めようとしています。

「ZEB（ゼブ）」を実現するには「省エネルギー（省エネ）」と「創エネルギー（創エネ）」の２つの技術が必要です。「省エネ」では、建物の壁を特別な素材にして、外の気温の変化に影響されにくくし、冷暖房の効率を上げます。また、自動で節電する高効率空調や高効率照明を使って、「建物自体」を節電します。次に、「創エネ」では、ソーラーパネルを使って太陽の光から電力を作ります。つまり、「省エネ」でエネルギーの消費をできるだけ減らし、必要なエネルギーは「創エネ」でつくります。これによって、建物全体のエネルギー消費をゼロに限りなく近づけることが可能となり、環境にとても優しい建物が実現します。今社会では、地球温暖化をこれ以上進行させないためにも、この「ZEB（ゼブ）」への関心がますます高まっています。

キーワード

地球温暖化

地球の空気には二酸化炭素などの温室効果ガスがあります。これらのガスが増えると、地球の気温が上がります。この現象を「地球温暖化」と言います。

高効率空調

小さなエネルギーで大きな空調能力を引き出せる空調設備のことで、電気代を削減できます。

高効率照明

LEDなどの小さなエネルギーで、蛍光灯と同じ程度の明るさを持つ照明のことです。

対象ゴール

みなさんにできること！

「ZEB（ゼブ）」の仕組みについて理解したうえで、周りの人たちにも教えてあげましょう。

おさらい

- イチケンでは、「ZEB（ゼブ）」という環境に優しい技術を採り入れた建物をつくっている。
- 「ZEB（ゼブ）」とは、「省エネ」と「創エネ」で、エネルギーの使用量をゼロにすることをめざす環境にやさしい技術。
- 地球温暖化の対策として、「ZEB（ゼブ）」をさまざまな建物に採り入れていくことが大切。

メモ

SDGsラジオ

SDGs新聞	株式会社イチケン
工事現場でもたくさんの女性が活躍	

SDGsラジオを読んでみよう！

「工事現場」と聞くと力仕事が多く、男性ばかりが働いているというイメージはありませんか？しかし今、女性が増えつつあるんですよ。
スーパーやショッピングセンターなどの建物をつくっている「商業施設建築のスペシャリスト。建設会社のイチケン」でも、
女性社員が工事現場で活躍しています。
日ごろ普段着で働く女性社員が作業服を身にまとい、工事現場を訪れ、
作業に適した明るさが保たれているか？熱中症対策が行われているか？ゴミはきちんと分別されているか？など、
パトロールを行い働きやすい職場づくりを指導しています。
彼女たちは、オフィスと工事現場をつなぎ、会社全体のコミュニケーションを活発にする役目も果たしているんですよ。
社会では今、これまで男性が多かった職場でも、たくさんの女性が活躍しています。
みなさんが大人になる頃には、今よりももっと色んな場所で男女問わずに活躍する世界になっているかもしれませんね。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！

画像参照：女性社員の環境衛生パトロールの様子

工事現場などの力仕事が必要とされる職場は、これまで「男性ばかりが働く場所」だとイメージされてきました。たしかに女性は男性と比較すると、体力面や筋力などのハンディキャップは否定できませんが、女性ならではの感性を活かせる仕事もあります。全国のショッピングセンターやスーパーマーケットなどの商業施設をはじめ、さまざまな建物をつくっている「建設会社のイチケン」でも、たくさんの女性が活躍しています。日頃はオフィスで働く女性社員が、現場作業用の制服やヘルメットを着用して、工事現場の環境衛生パトロールを行い、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。

画像参照：女性社員の環境衛生パトロールの様子

パトロールの点検項目は、ゴミの分別がきちんとされているか？トイレや更衣室の掃除はきれいにされているか？などの環境衛生面や「５S活動」の観点からも行い、男性では気が付かなった女性独自の細やかな視点で、新たな問題点を発見するなど、職場環境の改善が多面的に行われて、効果が表れています。近年、日本全体で推し進めているダイバーシティ&インクルージョンの考え方から、男女問わずにいろいろな職業や分野で活躍する社会が実現しつつあります。イチケンでも今、この環境衛生パトロールだけでなく、工事現場を管理する施工管理技士や建物を設計する建築士などの技術職、部下を指揮・管理する管理職の女性を増やしていくことにも力を入れ、ダイバーシティ&インクルージョンの推進に向けて積極的に取り組んでいます。

キーワード

５S活動

「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「しつけ」の5つのSからはじまる、職場環境の改善を目的とした活動のことです。

ダイバーシティ&インクルージョン

性別、国籍・障がいなどの違いを認め合い尊重し、これを組織内で受け入れ、個々が能力を発揮して活躍できている状態のことです。

技術職

数学や理科、工学、情報工学といった理系の専門的な知識を活かし、ものづくりに携わる仕事のことです。建設業の技術職は大きく分けて、工事現場で指揮を執る施工管理と設計の2種類があります。

対象ゴール

みなさんにできること！

ダイバーシティ&インクルージョンについて理解し、周りの人にも教えてあげましょう。

おさらい

- 工事現場などの男性が多かった職場でも、女性が活躍するようになってきた。
- イチケンでは、女性社員による「環境衛生パトロール」で良い職場環境をつくっている。
- ダイバーシティ&インクルージョンを進めていくことは、社会にとってとても大切。

メモ

SDGsラジオ

SDGs新聞	株式会社イチケン

パートナーシップで、安心・安全な工事現場へ

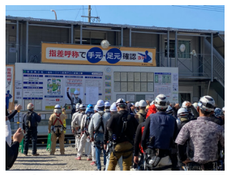
SDGsラジオを読んでみよう！

みなさんが住んでいるおうち、通っている学校の校舎、よく行くショッピングセンター。
これらの建物は、数か月から数年をかけて、延べ何百人、何千人という人々のチームワークによってできあがっています。
だからこそ、スーパーやショッピングセンターなどの建物をつくっている「商業施設建築のスペシャリスト。建設会社のイチケン」は、工事現場で働くすべての人々が、安心・安全に仕事を進められるように取り組んでいます。
「安全第一主義」で、ものづくりのパートナーである協力会社の方々と、安全対策はきちんと行われているか？作業が正しいルールや手順に沿って進められているか？など、色々なことに目を配って、事故や災害を起こさないための活動をしているんですよ。
また、協力会社の方々が安心して働けるよう教育などの支援も行っています。
一緒にがんばるすべての人を大事にする。
みなさんも、周りの友達を大事にする大切さについて、改めて考えてみましょう。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！

画像参照：工事現場での安全巡回の様子
（イチケン公式HPより）

工事現場は、クレーンやブルドーザー、ショベルカーなどの大きな機械や電動工具を使ったり、高い場所や足場が悪いところで作業したりと多くの危険がひそんでいます。そのため他の職場に比べると、労働災害が起きやすいとされています。このリスクに対して、全国のショッピングセンターやスーパーマーケットなどの商業施設を中心に、さまざまな建物をつくっている「建設会社のイチケン」では、「安全第一主義」を理念に、労働安全衛生法などの法律を守り、無事故・無災害を実現するためにいろいろな取り組みを行っています。そのひとつとしてイチケンでは、工事現場で働く人々が安心・安全に働けるように、定期的に現場をパトロールし、事故や災害が起きないようにする活動を行っています。また、健康管理にも気をつけて、体調のチェックやこまめな休憩、休憩室の温度管理などをして、熱中症を防ぐこともこの活動のひとつです。



画像参照：イチケン安全衛生大会の様子

さらに、毎年7月の「全国安全週間」では、全国の工事現場で安全衛生大会を開催しています。イチケンの社員だけでなく、工事現場で一緒に働く協力会社の人たちも参加し、「みんなで協力しながら、さらに安全な職場環境をつくっていくこと」を誓い、安全意識の向上を図る機会としています。ひとつの建物が完成するには、数か月から数年かかることがあり、何百人、大きいものでは何千人というものづくりのプロたちが関わっています。そして、それぞれが専門性を発揮することではじめて、建物が建てられるのです。だからこそ、「工事現場で一緒に働くすべての人を大切にすること」はとても大事。イチケンのこの姿勢・考え方は、SDGsの目標17「パートナーシップで目標を達成する」につながる、とてもすばらしいアクションなのです。

キーワード

労働災害

「労災」とも言い、仕事が原因で労働者がケガをしたり、病気になったりすることをいいます。

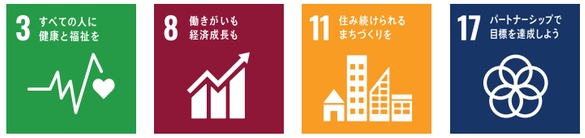
労働安全衛生法

労働者の安全と衛生についての基準を定めた「法律」です。

全国安全週間

毎年7月に、「職場でのケガや事故を防ぐための大切さ」をもう一度確認し、安全に働くための活動に積極的に取り組む期間のことです。

対象ゴール



みなさんにできること！

工事現場での事故や災害、ケガをしないためには どうすればいいか、考えてみましょう。

おさらい

- 工事現場はとても危険な職場であることから、働いている人々の安全を確保することが大切。
- 工事現場では「安全」だけでなく、工事に携わるすべての人が「健康」であることも重要。
- イチケンでは、協力会社の人も含めた全員で安全意識を高く持つことを大切にしている。

メモ

SDGsラジオ